



2021年4月9日

各位

会社名 イワキ株式会社
 代表者名 代表取締役社長CEO 岩城 慶太郎
 (コード番号 8095 東証第1部)
 問合せ先 取締役 CFO 熱海 正昭
 (TEL. 03-3279-0481)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年1月13日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年11月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (2020年12月1日～2021年5月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	36,300	1,100	1,130	710	21円53銭
今回修正予想 (B)	36,300	1,430	1,490	920	27円10銭
増減額 (B-A)	0	330	360	210	—
増減率 (%)	0.0	30.0	31.9	29.6	—
(ご参考) 前期実績 (2020年11月期第2四半期)	30,832	878	895	592	18円05銭

2. 修正の理由

(第2四半期連結累計期間)

第2四半期連結累計期間ですが、売上高は当初予算通りとなる見込みですが、利益面においては、前期取得した連結子会社の業績が大きく寄与しました。医薬事業では主力の外皮用剤などが伸長、連結子会社の受託品生産の増加などが利益に貢献しました。化学品事業では5G市場の拡大、在宅勤務増加などにより関連市場が活性化し当社主力製品販売を押し上げました。また、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、利益面が好調だったことに加え、販売費及び一般管理費のうち広告宣伝費等が当初予算を下回ることや在宅勤務、オンライン会議推進による経費削減効果などにより、前回予想値を上回る見込みであります。

(通期)

通期連結業績予想ですが、医薬事業と化学品事業につきましては下期も堅調に推移するものと見込まれます。またM&Aによるシナジー効果、化学品事業の海外展開など今後への効果が期待できるものの、新型コロナウイルス感染症、米中摩擦、日韓問題等のビジネスへの影響など不確定要素が多いことから、現時点においては2021年1月13日に公表した数値を据え置いております。今後、下期の動向等を精査し、業績予想の修正が必要な場合は、速やかに開示を行います。

※本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しております。実際の業績などは、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる場合があります。

以上